法月惣次郎さんを悼む

法月惣次郎さんは，2月12日，生まれてからずっと過ごしてこられた静岡県焼津市で，一ヶ月あまりの入院加療の生活の後に亡くなった．享年83歳であった．

焼津といえば，遠洋漁業の基地として知られた町である．法月さんは，14歳で高等小学校を卒業して，数年間かじ屋ででっち奉公をした後，鉄工所で働きだした．そして25歳で独立，鉄工所の経営に乗り出された．当時，島田市に海軍の技術研究所があり，そこの技術者に教わりながら，無線電話の開発にも手を出しておられたらしい．

空電研の秘密工場

戦後，その研究所の人達が島田技研という会社を創ったのだが，法月さんは親しくなった人達を頼って，ここに頻繁に出入りされていた．一方田中春夫さんは，創設されたばかりの名大空電研究所（豊橋）に赴任され，マイクロ派で太陽電波の観測を始めようとしておられた．田中さんも島田技研に知合いがいて，電波のアンテナを作る相談で，島田技研を訪ねられた．

ところが，田中さんと島田技研の話合いは，田中さんの提示した金額が余りにも少なかったので，成立しなかった．ところが，その話をそばで聞いていた法月さんが，「私がやってみましょう」と云われたらしい．これが，昭和24年頃の話である．そして，法月さんのところで，日本で最初の，赤道儀式パラボラ電波望遠鏡が出来上がったのである．しかもこれが予期以上に立派なものであったので，法月鉄工所と空電研太陽電波グループとの関係が始まったのである．

昭和40年頃，空電研と東京天文台とで同じ様な太陽観測用の電波干渉計の計画があり，二つの概算要求が文部省に提出された．ところが，その要求金額の桁が違っていた．そこでもちろん安い空電研の方が認められ，口径3 m 34基の電波望遠鏡が法月さんの手によって製作され，干渉計は完成したのである．この干渉計の性能は国際的な高い評価を得，空電研には秘密工場があるといった噂も流れたらしい．一方東京天文台の方は，法月さんの見積をもとにして計画を練り直し，概算要求され，野辺山太陽電波観測所の干渉計が出来上がったのである．

マイクロ波からミリ波，赤外，光へ

法月さんも，初めは周波数の低い電波望遠鏡のパラボナアンテナを手掛けておられたのであるが，そのうちに周波数の比較的高い電波望遠鏡にも挑戦され，35 GHzの電波の干渉計も名古屋大学に昭和45年に納入されている．そして，東京天文台の6 mミリ波用望遠鏡の架台も担当された．これらの仕事によっても，法月さんの仕事の評判は益々高まってきた．

その後すぐに，京都大学理学部の上松観測所の口径1.1 mの赤外線望遠鏡へと進路を開拓されたのである．この望遠鏡のために大活躍されたのは，まだ大学院生であった佐藤修二さんであり，法月さんへの仲介者は森本雅樹さんであった．法月さんによれば，「ある日森本さんがやって来て，赤外線といっても顔がなんとかうつる程度の鏡でよい」，と云ったそうである．田中さんは「ミクロンは無理だからやめろ」，と忠告されたようであるが，法月さんは引受けられた．鏡表面の最後の仕上げは，望遠鏡メーカーに下請けに出されて昭和48年に完成し，活躍したことはよく知られている．もっとも，法月さんによれば，下請けにぼられ大損であったそうである．

さらに，この頃から光学望遠鏡にまで進出され，池谷薫さんが鏡の研磨を担当されて，宇宙科学研究所内之浦の60 cm，国土地理院の40 cm，海上保安庁伊豆白浜と下里の60 cmの赤道儀は法月鉄工所の製作によるものである．また，東京天文台堂平観測所での月レーザー観測のための3.8 mの金属鏡も昭和50年に完成している．

法月技研へ

この頃の法月鉄工所は従業員65名，機械台数40，関連工場15という大きな組織になっていた．ところがここで，東京天文台の一職員の汚職事件に関連して法月さんは逮捕・起訴されて，執行猶予付きではあるが有罪の判決を受けた．これは，東京天文台がお世話になった法月さんを巻き込んでしまった大事件であり，当時は我々もやりきれない気持ちで日々を送っていた．

しかもその後，折り畳み式乳母車の製造も始められたのであるが，これにはすぐに大会社が参入し，多くの在庫を抱えて倒産という，更に不幸な事態となってしまった．

ところが法月さんは，その一年後の昭和54年，法月技研という会社を作られ，ほとんど法月さんが独力で望遠鏡製作に乗り出されたのであった．この技研で作られたのが，宇宙開発事業団の磁気測定装置，東京天文台90 GHzの太陽電波望遠鏡，名古屋大学や東洋大学の4 mミリ波用望遠鏡，早稲田大学の64基の4 m電波望遠鏡などであり，また最近は美星町の101 mの赤道儀望遠鏡など，公共天文台の望遠鏡にも力を注いでおられていた．そして，地元の焼津にも天文台建設の予定があり，80 cm赤道儀を作られたが，天文台の完成を見ないで亡くなってしまわれた．

社長の道楽

この様にして，法月さんの手掛けられた電波望遠鏡の数は350を越え，光学望遠鏡も10数基に及んでいる．そしてその何れもが，法月さんのご努力で仕様書に書かれた性能を越えたものであった．法月さんは学校で工業技術のことを習った方ではなかったが，常に周りの技術者から新知識を導入され，何時も最先端の技術を探究されていた．この様な業績を挙げた法月さんも，社会から報われることは少なかった．受けられた賞は，昭和62年の吉川英治文化賞，63年の科学技術長官賞，平成2年の宇宙電波懇談会賞であった．

法月さんは，従業員が「社長の道楽」と呼ぶほど，損得を抜きにして我々の仕事を引き受けてくれた．法月さんの工場に物を頼みに行くと，こちらの予算額を聞いて法月さんもあまりいい顔をしない．法月さんは，何時もにこにこと話は聴いてくれるのだが，なかなかうんとは云ってくれない．会計係には，長いこと銀行に勤めておられたという池田さんという方がおられ，この方もいやな顔をする．ともかくなんとか法月さんに引き受けてもらい，帰ろうとすると，工員さんに呼び止められ，「結局おやじは引き受けただろう」，とこれまたいい顔はしない．この様なことも，法月鉄工所倒産の遠因になってしまったのであろう．

法月技研になってからは，従業員の面倒をみる必要もなくなり，法月さんは仕事を楽しそうにやっておられた．法月さんは，望遠鏡を作るだけでなく，その据え付け，そして手直し，修理と，気軽にオートバイや車を運転して，天文台に来られた．法月さんはスピード狂でもあった．雄弁家ではなく，ぼそりぼそりと話をされる法月さんであった．お酒はお好きで，仕事が終わると，黙々としかも笑顔を絶やさずに杯を傾けておられた．

法月鉄工所は，家族ぐるみの会社組織で，法月技研になってからも，ご兄弟，お子さん方もよく協力されていた．その中心には奥様がおられ，団結の強い家族をつくっておられた．晩年には，望遠鏡の据え付けには，お嬢様を連れてこられた．法月さん亡きあとは，修理などは，この方が担当されるという．

この様な法月さんが亡くなって，改めて法月さんから受けた恩を思い出す．法月さんのご冥福を祈ってやまない．

古在由秀